

平成 28 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな教養と深い技術を身につけ、自ら学び、自ら考える力を備えた、心身ともに健康で社会の変化に対応できる人間性豊かな工業人を育成する。

2 学校の特徴

(1) ものづくりの心を育む教育活動

本県における「ものづくりの中核校」として、創造的なものづくり活動や資格取得、各種コンテストへの参加など積極的に取り組むとともに、地域産業との連携などを通して、21 世紀の産業界をリードするスペシャリストを育成している。

(2) 地域社会に根付いた学校教育

全員参加によるインターンシップ体験や工場見学を推進する他、五福児童館祭りなど各種地域イベントへの参加や小学生ものづくり教室の指導など、地域社会との積極的な関わりを通してキャリア教育を推進し、高い職業観、勤労観を身につけた工業技術者を育成している。

(3) 活気あふれる特別活動

生徒会活動や学校行事、部活動などに積極的に取り組ませることで、自らの能力を十分に発揮させ、個性あふれる、協調性を備えた人物を育成している。

3 学校の現状と課題

〔現状〕

- 学年 8 クラスの大規模校になって競争意識が強まり、互いに切磋琢磨しようとする雰囲気が高まっている。
- 各学科では、学習意欲の高揚や将来の職業選択に向け、検定の合格や資格取得を目指して熱心に取り組んでいる。
- 大多数の生徒が部活動に加入しており、ロボットなどの「ものづくり」や文化活動、運動競技に積極的に取り組み、全国大会入賞など、大きな成果を上げている。
- ここ数年、就職希望者の割合は増加しており、約四分の三の生徒が就職し、そのほとんどが地元の手製造業に勤務しており、離職率も低い。また、その他の生徒は各自の専門性をさらに高めるため、国公立大学をはじめ、主に工業系の各種学校に進学しているが、自らの可能性を試そうと、在学中と異なる分野にチャレンジする者もいる。

〔課題〕

- 「県内産業界のニーズに対応する人材育成」を最重要課題と位置づけ、その実現に向けて、さらなる研究実践を進める必要がある。
- 生徒には技術・技能ばかりでなく、人間関係形成能力やコミュニケーション能力、自主性や協調性が期待されている。
- 日々進歩する工業技術の進化に対応し、現場で必要な即戦力を身につけさせる為に、専門教科指導法の改善や、新教材の開発が求められている。
- 異なる学習歴などにより生徒間の学力差が拡大しており、「学び直し」を行うなど、工業高校生として必要な基礎学力の定着を図る必要がある。
- このためにも、研究体制の構築と教員の意識向上が必要である。各教科が独自で動くのではなく、学校全体で連携して動ける体制の構築が必須である。

4-1 学校教育計画(全日制)

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	○ 学力と学習意欲の向上を図る。
		計画	○ 校内指導体制を充実させ、互見授業による授業研究と授業改善を図る。 ○ 検定や資格取得を目指す学習を継続させ、学習意欲の向上を図る。
2	学校生活 重点2	目標	○ 広い視野で社会を捉え、「自ら考え、善悪を正しく判断し、適切な行動ができる生徒」を育成する。
		計画	○ 全教職員が共通理解のもと、生徒指導についての考え方を確立し、教育のあらゆる場面を通して、その実現に向け取り組む。 ○ 地域や家庭、関係諸機関との連携を密にし、生徒の健全な生活習慣の確立に努める。 ○ 愛校心を育み、生徒が誇れる学校づくりを進める。
3	進路支援 重点3	目標	○ 社会での使命を自覚させ、生徒が自己の能力・適性を見つけ出し、その役割を果たすよう自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるように指導する。
		計画	○ 学年、各学科と連携し、学校全体の指導を通して、生徒と保護者が納得できる進路決定を行えるようにする。 ○ インターンシップや工場見学、応募前職場見学を通して企業について理解し、勤労意欲や社会人のマナー等を学ばせる。 ○ 進路希望調査、面談などにより生徒の実態を把握し、講師を招いて講話会を開くなど、進路意識や職業観を養う手だてとする。 ○ 進路説明会や保護者懇談会などの機会を通して本校の進路指導の現況を保護者に知っていただく。 ○ 進学希望者に対しては、外部模試等で自分の力を把握させ、進学と進学後のために基礎学力と勉強習慣を身につけさせる。
4	特別活動 重点4	目標	○ 生徒会が中心となり、代議員会を通して生徒達の意見を基に学校行事等における自主的で活発な活動を推進する。 ○ 生徒会活動や部活動を通し、自主的自律的な生活態度を養うとともに、成就感や達成感を体験させる。
		計画	○ 生徒会とホームルームの連携を強め、アンケート調査をもとに 学校行事の内容や実施方法について代議員会等で、十分に検討し生徒の参加意欲の向上や活性化を図る。 ○ 全員部活動加入を通して、生徒一人一人が成就感や達成感を味わえるよう個々に目を向けた活動を心掛ける。また、部の運営や部室の使用、活動場所の環境整備等について自主的に改善されるよう啓発する。
5	その他	目標	○ 生徒の安全意識を高め、自主的に健康を管理するスキルを育成する。 ○ 不安や悩み押しつぶされることなく、充実した高校生活を送ることができるよう支援する。 ○ 読書意欲を向上させ、読書習慣の定着をはかる。

			<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の情報活用能力やプレゼンテーション能力を高めるため、各種資格検定のための学習環境や、情報関連機器の利用環境を整える。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健便りを発行し、安全に対する啓蒙を図るとともに、各部署と連絡を密にする。ケガの処置時に個別指導を充実させる。 ○ 生徒が抱えるさまざまな問題に対し、関係の教職員や保護者と連携を図りながら解決に努める。 ○ 利用しやすく、快適な図書館にするための環境整備に努める。読書習慣が身に付くように、ホームルームの年間指導計画に「読書会」を設ける。 ○ 授業での情報室の利用や、課題研究発表会などでのプレゼンテーション能力を養うための情報関連機器及び視聴覚機器の利用など、効果的な情報教育を積極的に支援する。

4-2 学校教育計画(定時制)

項目		目標・方針及び計画	
1	特別活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の生徒の学力に応じた指導を各教科間で連携を図りながら模索し、学習意欲を喚起する授業を展開し、基礎学力の向上を目指す。 ○ ものづくり教育を推進するため、専門科目で実技を中心とした授業を展開することにより、自ら考え、判断できる力の育成を目指す。 ○ 課題解決力の定着を計るため、安全作業をよりどころとした工業専門に関する基本技能の習得や基礎知識の理解を目指した授業を展開し、自己達成感を実感できる教育を推進する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工業高校の特色を活かすことはもとより、生徒個々の学力向上および進路意識の昂揚に配慮し、普通教科と専門教科の調和がとれた教育課程を編成する。 ○ 個々の生徒の実情を踏まえて、各種検定試験に合格できる力の養成を目指した個別指導や継続的な補習を計画する。 ○ 個々の生徒が理解を深めるために、個々の学力に応じた指導の工夫を計るとともに、落ち着いて授業に参加できる環境を整備する。 ○ 生徒の自己肯定感の醸成を計るため、生徒自身が製作した作品や授業で学習した内容について発表する機会を設定する。
2	学校生活 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主自立の精神の醸成に努め、社会人として必要な規則やマナーを遵守する態度の育成と規律ある基本的生活習慣の確立を目指す。 ○ 健康と命の大切さを認識させ、自らの健康管理と事故防止に努める能力と態度を育成する。

		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者と緊密に連携し、職員全体で生徒の生活指導にあたる。 ○ 交通安全に関する行事や指導を定期的実施し、交通マナー向上や交通規則遵守を図り、事故防止に努める。 ○ 健康診断や健康相談を通して、自らの身体の状態を把握させる。 ○ 保健指導や食事指導を通して、適切な行動選択ができるように促す。 ○ 「保健だより」や「給食だより」の発行を通して、健康で安全な生活や正しい食生活に対する意識を高める。
3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの生徒が「働きながら学ぶ」という定時制の実態をふまえ、生徒の望ましい職業観や職業意識、主体的な職業の選択能力を高めるよう指導・支援する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路に関する情報収集に努め、職業安定所など関係機関との連携を密にして生徒に対する進路指導の充実を図る。 ○ 学級担任・進路指導担当者と保護者との連携を密にするとともに、面接指導等を充実させ、生徒個々に適した進路指導に努める。
4	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別活動を通して、日々の生活を有意義に過ごすための動機付けを行う。 ○ 日頃読書に親しむ機会が少ない生徒に図書館の活用を指導し、併せて職場の仕事に必要な自主的学習活動の促進を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会（執行部・委員会・ホームルーム）の自主的な活動を促し、自主活動醸成の場とする。 ○ 特別活動の活性化を図り、部活動や生徒会行事に対して意欲的に参加する生徒の増加を目指す。 ○ 図書および視聴覚の充実と利用の促進を図る。 ○ 生徒の興味を引き、創造性を高める図書を選定する。 ○ 読書の習慣が身につくように、年間計画に読書会及び読書感想文コンクールを設ける。
5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育目標達成のため、定時制特質及び生徒の実態をふまえて、全職員の共通理解のもと円滑な校務運営に努める。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員間の情報共有と共通理解を大切に、個々の課題に対して主務を中心に全職員で対応する。 ○ 部、科、学年間の連携と調整を図り、効果的な校務運営をすすめる。

5-1 今年度の重点課題（全日制）

平成28年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	教科指導の充実
重点課題	学力と学習意欲の向上
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互見授業期間を年2回設定し、授業の研究と改善を図っている。平成27年度は、6月（19回）、11月（20回）合わせて39回の互見授業が実施されている。 ○ 朝学習、放課後学習会を通して基礎学力の向上と定着に力を入れているところである。 ○ 専門分野に関する検定や資格取得に向けた補習を行い、学習意欲の向上を図っている。
達成目標	<p style="text-align: center;">互見授業実施回数</p> <p style="text-align: center;">年45回以上</p>
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業改善を図るために互見授業期間を設定し、授業研究を行う。 ○ 朝学習、放課後学習会を通して基礎学力の向上と定着を図る。 ○ ジュニアマイスター制度および単位認定制度の周知徹底を図る。 ○ 検定合格や資格取得を目指し、学習意欲の向上や学習習慣の定着につなぐ。

平成28年度 富山工業高校アクションプラン -2-	
重点項目	生徒指導の充実
重点課題	規範意識を持った主体的な態度の育成
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車やスマートフォン等のマナー違反に罪悪感を持たず、交通事故に遭ったり、校内でのスマートフォン等の使用で指導を受けたりする生徒が後を絶たない。 ○ 多くの生徒がSNSを利用しており、ネット社会の危険性についても十分理解させ、犯罪等に巻き込まれないように指導する必要がある。 ○ 挨拶、身だしなみについては形式的な面はあるものの、良い習慣として定着している。自律心を持って日常生活を送らせることにより、実質的な行動ができる生徒を育てたいと考える。 ○ 併せて、生徒が誇れる生徒・学校づくりを推し進め、愛校心を育みたい。
達成目標	<p style="text-align: center;">交通事故件数、携帯・スマートフォン使用に関する指導件数の低減</p> <p style="text-align: center;">昨年度比1割減</p>
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校風委員をサイクル安全リーダーに任命し、自転車乗車マナーの呼びかけ、自転車点検、駐輪場整備などで生徒の自主的な活動を促す。 ○ 自転車通学許可の条件に「安全講習」の受講を追加する。 ○ 学校周辺にて登校指導を随時行う。 ○ 保護者や地域の方と協議する場を設け、現状の問題点と対策を共有し、多方面からの指導を実践する。 ○ 100周年の節目を迎えるにあたり、その伝統に誇りを持たせながら、よりよい富山工業高校を築いていく自覚を持たせる。

平成28年度 富山工業高校アクションプラン -3-	
重点項目	進路指導の充実
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定
現状	○ 昨年度は、高等学校再編統合により学年が6学科8クラス編成となって四回目の卒業生を送り出した。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒自らが進路を選択できるように、段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、計画性、判断力、適応力など）の向上に努めることが重要である。
達成目標	3学年における進路希望の達成度 (就職・進学を合わせた第1希望合格率)
	93%
方策	○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定させる。 ○ オープンキャンパス、学校説明会などに積極的に参加し、進学先を決定させる。 ○ 資料閲覧室の利用しやすい環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ○ 面接指導、補習など各教科、各学科の協力を得てきめ細かい指導をする。

平成28年度 富山工業高校アクションプラン -4-		
重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）	
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした、百周年記念に向けた積極的な取り組み	
現状	○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。 ○ これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進し創校百周年を盛り上げたい。	
達成目標	創校百周年に向けて生徒会を中心として、生徒が積極的に企画した各学校行事と組み合わせながら、意欲的に参加し、気運を高めた生徒の割合 (※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率)	
	運営・企画に積極的に参加した	70%以上
	創校百周年に対して気運が高まった	80%以上
方策	○ 生徒会や運営委員会、代議委員会を中心に体育大会、文化発表会、球技大会等行事に百周年に関する企画、運営を行う。 ○ 記念イベントの企画や、全校生徒が一体感を感じることでできる取り組みを生徒会が中心となって提案し、実行に移す。	

5-2 今年度の重点課題（定時制）

平成28年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	基礎学力の向上と各種資格取得の推進
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校入学以前の学習面のつまずきによる基礎学力不足や集団生活への不適應から、学習意欲に乏しく、授業への参加も消極的である。 ○ 特に、高校生として求められる漢字力や文章読解力、計算能力や論理的思考力、およびコミュニケーション能力などの、生活していく上で必要と思われる一般的な教養については、個人差はあるが身につけていない生徒が多い。
達成目標	全国工業高校長協会主催の資格や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合 50% 以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科間で連携し継続的な指導を行うことにより、学習習慣の確立を目指し、基礎学力の向上を図る。 ○ 個々の生徒の学力に応じた目標を設定させ、自作教材を用いて学習させる。 ○ 生徒が受検を希望する検定に応じた補習等を実施し、合格に必要な知識の理解と定着を図る。 ○ 学校設定科目「生活技能」を活用し、基礎学力を礎にした工業の専門的な知識や技能の習得、および社会生活に必要なマナーや教養を身に付けさせる指導法を工夫する。

平成28年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になったり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度に欠けたりする場合もある。また、減少傾向にはあるが授業遅刻や早退もみられる。 ○ しかし、最近では、自分の将来を考え、毎日登校する習慣を大切に、きちんとした高校生活をしようと努力している姿も見られる。年間を通して無欠席の生徒も存在し、皆勤賞、精勤賞の割合も向上しつつある。 ○ このように目標と向上心を持って、基本的な生活習慣を確立し、自主・自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず、学校生活の充実に繋がると考える。
達成目標	年間の皆勤・精勤生徒の割合

	<p style="text-align: center;">52% 以上 (19人中10人)</p> <p>(平成23年度 : 21%、24年度 : 20%、25年度 : 32%、26年度 : 26%、27年度 : 50%)</p> <p style="text-align: center;">*皆勤 = 一カ年の欠席が0日 *精勤 = 一カ年の欠席が3日以内 (皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する)</p>
<p style="text-align: center;">方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活状況の確認に努め、生活リズムを確立させる。 ○ 授業遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等の充実を図る。 ○ 将来を見据えた進路指導の充実を図り、日常生活の見直しを行う。 ○ 健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ○ 保護者と緊密な連絡体制をとり、生徒の状況により、早期に対策を施す。 ○ 年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。